

2-9		主題	経口摂取維持に向けた取り組み	
他職種同士の話し合い		副題	いつまでもおいしく食事するために	
研究期間	12ヶ月	事業所	特養シオンとしま	
発表者：早川健太		アドバイザー：		
共同研究者：神谷勇治、志田宏美、田丸瑞穂				
電話	03-3984-7477	メール	sion-t.3f@doaikai.com	
FAX	03-3984-7478	URL		

今回発表の事業所やサービスの紹介	特別養護老人ホームシオンとしまは、平成16年6月に開設しました。5階建て、2～4階が居住スペースの小規模な施設です。定員は66名（ショート4床）です。池袋駅から7分という都会にあるため、ご面会に来られるご家族は多い施設です。
------------------	--

<p>《研究前の状況》</p> <p>シオンとしまの平均介護度は年々上昇し、入所者のADLも重度化し、それに伴い、嚥下困難な入所者が増加してきた。</p> <p>《課題》</p> <p>嚥下困難者が増加していく中、介護職員は「むせ込みやため込みのある入所者に対する食事介助が難しい」「誤嚥しているかどうか分からない」など日々の食事介助の中で不安を抱えながらケアを行い、入所者のご家族の中には「最後まで口で食べる事を望み、胃ろう造設を希望しない方」「特養を終の棲家と思い入所する方」が多い中、可能な限りリスクを回避し、どのようにして最期まで安全な経口摂取をしてもらおうかが、当施設の課題であった。</p>
---

<p>《研究の目標》</p> <p>「安全に経口摂取を維持する」</p> <p>《取り組みと期待する成果》</p> <p>①専門家による嚥下機能の評価の実施 ⇒専門家による適切な評価を得ることで、各職種がより質の高いケアを行えるのではないか。</p> <p>②嚥下しやすい食事の提供 ⇒入所者にあった食事を提供することで安全に食事をしてもらい、体調を維持することができるのではないか。</p> <p>③経口摂取につながるリハビリの実施 ⇒専門家のリハビリを行うことで嚥下機能の低下を防げるのではないか。</p>
---

《具体的な取り組みの内容》

嚥下機能低下が全身状態を悪化させたと考えられる、N氏を対象とし、1年間実施。

<H21年4月>

- 体重：57.45kg（減少）
- 食事摂取量：9.5割（低下）
- 栄養状態：アルブミン値3.2（低下）
- 嚥下状態：開口困難・飲み込み悪い
- 褥瘡：臀部にⅡ度の褥瘡の発生  
⇒入所前からの口腔マッサージを継続中

<H21年6～9月>

- （取り組み内容）歯科医師・医師の評価の実施  
口腔マッサージのチェック・嚥下評価、  
嚥下内視鏡検査・食事内容の評価・食事姿勢の  
指示・呼吸リハビリの指示）  
⇒食事形態の見直し（NS・栄養士・CW）  
⇒口腔マッサージ（CW）  
⇒呼吸リハビリ実施（PT・CW）

<H21年10月～3月>

- （取り組み内容）口腔マッサージ継続（CW）・  
呼吸リハビリ実施（PT・CW）
- 体重：61.75kg（増加）
  - 食事摂取量：9.5割  
（8月：7.5割から回復）
  - 栄養状態：アルブミン値3.4（上昇）
  - 嚥下状態：開口良好・むせこみなし
  - 褥瘡：臀部褥瘡治癒
  - 呼吸リハビリにより無呼吸回数の減少

《取り組みの結果》

①歯科医師・医師による嚥下評価

- ⇒N氏の嚥下機能を把握した上で根拠を持ってアプローチすることができた。
- ⇒口腔マッサージや呼吸リハビリについて評価してもらうことにより、その効果を知ることができた。

②食事形態・内容

- ⇒N氏に適した食事内容を提案できた。

③口腔マッサージ・呼吸リハビリ

- ⇒舌や口の動きが改善し、口腔内残渣物が減った。
- ⇒無呼吸が減り、肺雑音や、著明な痰の貯留はみられなくなった。

《評価》

目標：「安全に経口摂取を維持する」

- ⇒「慢性的に誤嚥している」という診断があったにも関わらず、体調変化なく今日まで経口摂取を維持できている。
- ⇒多職種で情報共有されていない時があり、N氏の経過を追えない場面があった。
- ⇒1事例のみの取り組みのため、今後、事例数を増やすことで効果を実証していくことが必要と思われる。

《まとめ》

外部との連携の難しさ、施設内での情報共有と実践の難しさを知ると同時に、その重要性を実感した。今後は、多職種連携によるケアを実現し、入所者の個別ニーズに対応していきたい。

《提案と発信》

今回のケースでは医師・歯科医師・理学療法士・看護師・栄養士などの専門職の意見を聞くことにより現場スタッフだけでは難しい問題に取り組んだことで、N氏は入院せずに施設で過ごすことが出来ている。  
今回はあくまでも、ケースの一つに過ぎず、今後も取り組みの効果を検証していくため、他のケースでも活用していけるかどうかを試していきたい。

【メモ欄】